

あとがき

教育研究所の20周年を記念して祝賀会を催していた折り、あるご婦人の方から、10年後の記念するコンサートには是非出席したいので、これからも頑張ってくださいとの励ましの言葉をいただきました。

しかし、一時は会員の急減による財政難から研究所の存続が危ぶまれ、その当時の総会出席者の方から「今日は研究所の閉会式か」とも言われました。それまでの季刊「にいがたの教育情報」を年4回から3回の発行に改め、さらに事務職員の勤務を週4回（半日）から週2回（半日）に切り詰め、と同時に多くの方々からのご寄付をいただいて何とか、30周年を迎えることができました。

これを機会に、1984年設立のための準備会も含め、教育研究所が取り組んできた、これまでの研究・調査、教育シンポジウム・集会、学習会などをまとめた資料集を作成することと致しました。これには小林節夫さん（元全国農民連代表常任委員）の言葉「(記録を)何もしなかったら、なにもしなかったことが歴史に残る」を思い浮かんだのです。また、膨大な資料集の刊行は、多くの費用も要することから、比較的安価に仕上がる「CD-R」にまとめました。

振り返ってみて、一時700人近い会員を擁した当時は、その研究活動には目を見張るばかりですが、研究所の力の及ぶ限り、「憲法と旧教育基本法を教育に実現する」との思いで、これまでの取り組みの教訓を今後に生かしたいと考えております。

今後とも、会員の皆様、関係する皆様方には、これまで以上にご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、編集にあたって、小東由男・小野塚恒男・伊藤英世各所員に労を費やしていただきました。

(事務局長 内山雄平)